

# ブランウェル・ブロンテと地図の翻案

## ブラックウッズ・エディンバラ・マガジンへの信用

古野百合

### 1. はじめに

ブランウェル・ブロンテ(1817-1848)がグラスタウン物語を構築する際に描いたアフリカ西海岸を基にした架空の地図は、1826年6月号 *Blackwood's Edinburgh Magazine* (以下、マガジンと呼ぶ) に掲載された地図に起源がある。この地図の作図者は、西インド諸島の農場経営者、奴隷制度支持者、またコロニアル銀行やロイヤル・メール・スチーム・パケット・カンパニーの設立にも貢献したジェームズ・マックイーン(1778-1870)である。彼は、机上の地理学者(*armchair geographer*)、即ち自らは実際に現地へ足を運ばず、探検家たちの報告書や農場で働くアフリカ人からの聞き取りをもとに、ニジェール川の流路を表した地図を描いたことで有名である。1841年に出版した地図は英国地理協会から「アフリカ内奥を正確に示した最初の地図」と称され、1845年には英国地理協会の会員に任命された。しかしマックイーンの偉業の背後にあった紆余曲折については、等閑に伏されていた。21世紀になってから、2004年に Charles Withers が論文を、また 2013年に David Lambert が研究書を出版し、マックイーンの生涯とその功績が明らかにされた。本発表では、現存するブランウェルの地図に影響を与えたマックイーンの偉業について、地理学、歴史学の観点から先行研究を検証し、マックイーンの証言による知識への信用は、ブランウェルのマガジンの記事や地図に対する信用と相通じるものがあり、グラスタウンの地図作成や作品における地理的造形においても表出されていることを明らかにした。

### 2. James MacQueen の功績

ラナークシャー出身のマックイーンは、当時グレナダで勃発した奴隷による大規模な暴動で荒れ果てた農場を再建するために、1797年夏 19歳の時、グレナダに到着した。やがて農場経営者となり、1810年にスコットランドに帰郷するまで 13年間西インド諸島で過ごした。その後、グラスゴーでワイン貿易会社に勤める傍ら、新聞社の編集者として自身の意見を発信するようになる。また 1810年代後半からは、マガジン創業者のウィリアム・ブラックウッズと交流を深め、初めのうちは貿易収支の報告記事を担当していたが、やがて 1823年からはアフリカの地図と奴隷制度に関する詳細な意見書を投稿するようになり、1844年までの間に 18もの記事が掲載された。

マックイーンは農場で働くアフリカ奴隷に確認しながら情報を収集し、Mungo Park が 1799年に発表した調査報告書 (*Travels in the Interior Districts of Africa: Performed under the Direction and Patronage of the African Association*) の信憑性を検証した。マックイーンは証言や伝聞など独自の調査結果に基づき、パークの探検報告書に誤謬があることを確信し、ニジェール川がベニン湾から大西洋に流れ出ると結論付けた。1820年に最初の地図を作製し、その後 1826年、1830年、1841年と 3回に分けて地図を改変させた。しかし当初は、地図製図法について訓練を受けたことがなく、証言や探検報告書の文献研究を基に作図した地図は信頼するに及ばないとして、批判を浴びた。

1822年から 1824年にかけて海軍提督 John Barrow により派遣された Dixon Denham, Hugh Clapperton, Walter Oudney の 3人による探検報告書が 1826年に出版されるや否や、マックイーンはその書評と自作地図をマガジンに投稿し、同年 6月に掲載された。マックイーンはこの記事において、ニジェール川とナイル川が繋がっているとするバロー提督の見解を否定するとともに、デナムら 3人の探検家たちが、ニジェール川の流路について明らかにしていないことを指摘し、自らが作成した地図を基に、ニジェール川の流路について詳細な解析を行った。机上の地理学者マックイーンの偉業について、歴史学者のランバートは、「カリブ海の農園で働く奴隷たちから得た知識(*enslaved knowledge*)によって描かれたアフリカ内奥の正確な地図が、奇しくも奴隷貿易を廃絶し、アフリカ内奥における新たな商業的活路を見出すために行われた 1841年のアフリカ探検の土台となった」(144)と、指摘する。一方地理学者のウィザーズによれば、マックイーンは「他の証言を信用、信頼することにより、精度の高い地図を作成することに成功した」(187)。いわば、地図は信頼と証言が具現なのである。

### 3. ブランウェルが描いた地図と西アフリカ海岸の地理

ブランウェルが 1830年 12月から 1831年 5月にかけて書いた *The History of Young Men* は、シャーロットの *A Romantic Tale* (別名 *The Twelve Adventurers*) のリテリングである。ブランウェルは「若者たちの歴史」

を書く際に、グラスタウン国の地図も描き、これによってグラスタウンの歴史的また地理的な背景を確立させた。16 ページからなるこの物語の、表紙裏に挟まれていたこの地図は、色鉛筆で描かれ、現在は英国博物館に所蔵されている。この地図が、マックイーンの地図から影響を受けて描かれたとする根拠は、地図と共に掲載された記事における主張にあった。その記事の中で彼は、イギリス軍が当時拠点置いていたシエラレオネから撤退し、ニジェール川河口にあるフェルナンド・ポーに新たに拠点を置き、そこをアフリカ植民地政策の中心にするべきである、との見解を述べた。当時実際にシエラレオネでは地理的、気候的な悪条件から疫病が流行し、多くの兵士が命を落としていた。それに比べて、フェルナンド・ポーは気候もよく、ニジェール川河口から内奥に向けて航路が確保されている点が大きな利点であった。一方、ブランウェルが描いたグラスタウンの首都ヴェルドポリスは、まさにニジェール川の河口に位置している。このことから、姉弟が創作したグラスタウンは、マックイーンが記事において主張したアフリカ植民地政策を物語世界で実践したものである、とクリスティーン・アレグザンダーは推察した(1994)。

しかしブランウェルの地図を細かく観察すると興味深いことに、ニジェール川の流路についてはマックイーンの流路を採用せず、記事においてマックイーンが批判したバロー提督の見解を踏襲していた。*Quarterly Review* の地理部門の担当論者でもあったバローは、ニジェール川の流路をめぐる、マックイーンと紙面上で激しくやりあった。ブランウェルは、グラスタウンの地図を作製した際にはバローの考えるニジェール川の流路に軍配を上げていたのである。その後、1831年7月号のマガジンにおいてバローの敗北宣言、つまりマックイーンの実事上の勝利宣言が述べられることにより、ブランウェルはマックイーンの流路を採用するようになり、作品に取り入れた。「若者たちの歴史」以降、ブランウェルは作品により詳細な地理的情報を加えることになる。「若者たちの歴史」では言及されなかったニジェール川やその支流についても繰り返し言及され、ノイフェルトが編纂したブロンテ全集では、詩と散文を含め計 45 回以上ニジェール川が登場し、アフリカ地理に対する並々ならぬ好奇心が表れている。

#### 4. 結論

ブランウェルが作成した架空のアフリカ西海岸の地図は、他者の証言や他者が作った地図や報告書を合成して得られた知識の集積であるマックイーンの地図をもとに、想像力を以って作成された、云わば地図の翻案と言えよう。また、マガジンに投稿された記事から、西アフリカの地理のみならず、現地でイギリス軍が抱えていた様々な問題についての知識を得た。特に、マックイーンの記事から多大な影響を受け、それらを作品に取り入れたことはこれまでも指摘されてきたが、当時のイギリス植民地政策への批判、またアシャンティ族などアフリカ原住民に対する偏見が散見されることから、マックイーンの見解に対して海外のブロンテ研究者はあまり評価をしてこなかった。しかし、マックイーンは机上の地理学者でありながら、ニジェール川の正確な流路を示した地図を作図するという偉業を成し遂げた。マックイーンの見解による知識への信用と、ブランウェルのマガジンの記事に対する信用には、合い通ずるものがあり、そのことがグラスタウンの地図作成、また作品の地理的造形においても表出されているのである。先行研究においてマックイーンの見解の影響がこれまでも指摘されてきたが、この二つの地図を実際に見比べることはこれまでなかった。地図を比較した後で改めて作品を読むと、ニジェール川の流路にブランウェルが多大な関心を抱いたことを明らかになった。今後も、ブランウェルの地理的好奇心から初期作品を眺めることによって、また新しいことが発見されるのではないかと期待している。

<引用参考文献>

- Alexander, Christine and Margaret Smith. *The Oxford Companion to the Brontës*. Oxford: OUP. 2003.
- Brontë, Patrick Branwell. *The Works of Patrick Branwell Brontë Volume1:1827-1833*. Ed. Neufeldt, Victor A. New York: Garland. 1999.
- Lambert, David. *Mastering the Niger: James MacQueen's African geography & the Struggle over Atlantic Slavery*. Chicago: UCP. 2013.
- MacQueen, James. "Geography of Central Africa: Denham and Clapperton's Journal." *Blackwood's Edinburgh Magazines*. 19 (1826): 687-709.
- Oliphant, Margaret. *Annals of a Publishing House Volume 2: William Blackwood and His Sons, their Magazine and Friends*. Cambridge: CUP. 2020.
- Withers, Charles W. J. "Mapping the Niger, 1798-1832: Trust, Testimony and 'Ocular Demonstration' in the Late Enlightenment" *Imago Mundi*. 56. 2 (2004):170-93

※本研究は JSPS 科研費 JP21K00407 の助成を受けたものである。